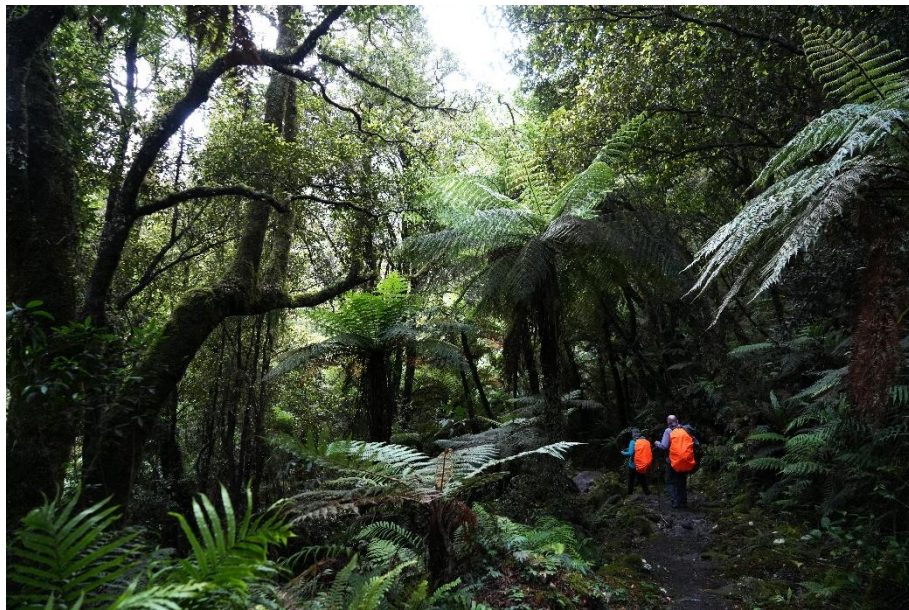


天溪 2026 年「ミルフォードトラックとMt.クック 11 日間」

天溪 2026 年最初のツアー「ミルフォードトラック とMt.クック 11 日間」を1月20日～1月30日に行いました。

日本を出発する前に調べたニュージーランドの天気図は、南下する熱帯低気圧と西から張り出す高気圧に挟まれ、等圧線が密集した縦縞模様。私も初めて目にする南半球の夏季「西高東低」の気圧配置で、天気が大きく変わりやすく風も強まる状況でした。

それとは別に20日未明、この20年で最強クラスとされる大規模な太陽フレアが発生し、日本でもオーロラが見えたとか。ところが此の強烈磁気嵐はGPS測位誤差の増大、衛星通信の悪影響、無線通信の減衰などを引き起こし、場合によっては飛行機の運行を妨げます。実際、現地で出迎えてくれたエージェンツから「飛行機が無事飛ぶか心配していた」と聞かされる始末。今回訪れた南島のハイキング拠点、クィーンズタウン(南緯45度)は条件が合えばオーロラが見れるチャンスが有る所。しかし、到着日の21日夜は曇天でオーロラは見れませんでした。



(1月25日ミルフォード4日目)

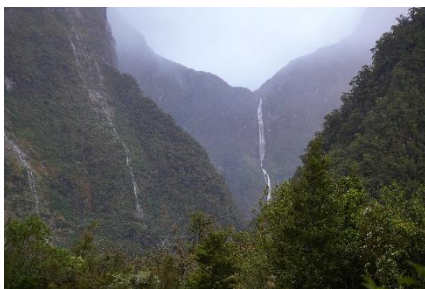
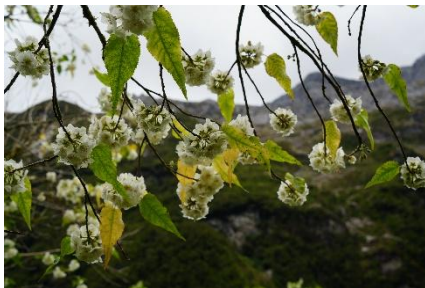
○ミルフォードトラックI ※NZ= ニュージーランド ※MT= ミルフォードトラック

天気図は見事な縦縞の気圧配置でしたが、熱帯低気圧がやや東にそれたため、MT入山から2日間は曇り時々晴れの落ち着いた天気、年間降水量1,000mmとも言われるレインフォレストの中を、穏やかな条件で歩くことができました。

ところが3日目、このトレイル最大のハイライトであるマッキノンパス越えは、皮肉にも風と小雨に見舞われ、やや荒れた山岳歩行となりました。それでも参加された皆様は天候にめげることなく、ロッジ到着後さらにサザーランド滝の見学に向かわれました。余談ですが、MTはもともとこの滝を見るために造られたルートとも言われています。

最終日はルート中で最も長い21km。海に近づくにつれて天気が回復し、悔しさと達成感が入り混じる、何とも複雑な心境のゴールでした。







(1月24日ミルフォード3日目)

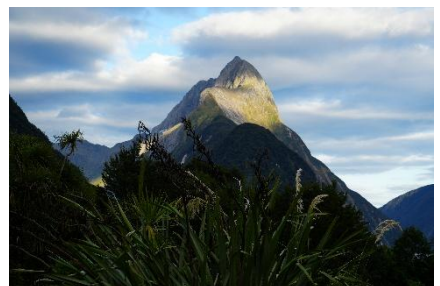
○ミルフォードトラックⅡ

最終日は、おまけのような位置づけのミルフォードサウンドのボートクルーズが有りました。一般的なニュージーランド観光は、このクルーズがメインイベントになることが多いようです。これまでの天気が一転し、晴天の中でのボートクルーズとなりました。参加者の皆様は、心地よい海風を受けながら、MTの締めくくりをゆったりと満喫していました。

以前にも触れましたが、MTのトラックツアーを始めて20数余年が経ちます。その間、雪崩や木雪崩、土砂崩れなどによる大きな爪痕が目立つようになってきました。日本でもゲリラ豪雨やゲリラ雪といった局所的に甚大な被害をもたらす現象が見られますが、こうした異常な降り方は世界的な傾向に思えます。



(1月26日ミルフォード5日目)





○アオラキ・Mt.クック

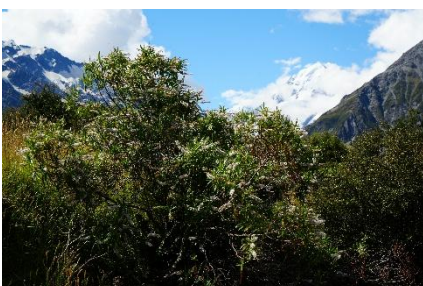
少し不満の残る MT の天候でしたが、多雨で知られるフィヨルドランド地方は雨に遭うのも良い事だそうです。

一方、そこから北西へ約 250km に位置する Mt.クック山麓のアオラキ国立公園も、決して晴天率が高い場所では有りません。しかし、2 日間の滞在でしたがこれ以上ないほどの快晴に恵まれました。

フッカーバレーは 2 番目の橋が補修中で、その先は残念にも通行止めとなっており U ターンしてキアポイントに目的地を変更。ここでは大きなモレーン越しに Mt.クックの頂や浸食された氷河地形を見る事が出来ました。翌日は宿泊したハミテージホテルを起点にすれば反対側のレッドターンに登り、Mt.クックと眼下に広がる Mt.クックビレッジの景色を堪能、またトレイル沿いに咲くマヌカの花が印象的でした。



(1 月 28 日レッドターンより)





天溪の夏季欧州ハイキングツアーは以下の日程で行われます。

6月23日 出発 チロルとドロミテハイキング 11日間 <満席>

7月5日 出発 花のアルプスハイキング 10日間

7月14日 出発 ツールドモンブラン 11日間

7月24日 出発 ピレネー国境横断ハイキング 11日間

記 天溪 赤沼